

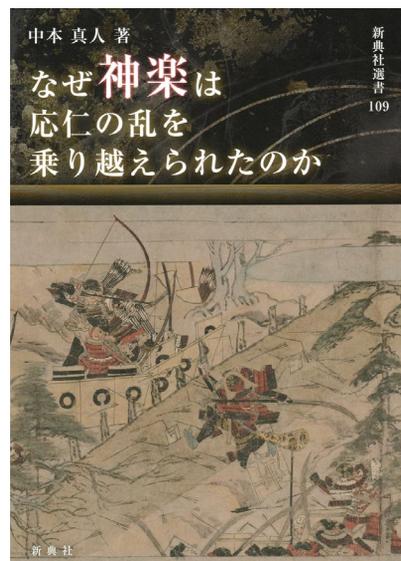
# 『なぜ神楽は応仁の乱を乗り越えられたのか』は、なぜ書かれたのか

人文社会科学系 中本真人 准教授

## 激動の時代を公家の視点から描き出す

応仁の乱は、応仁元年から文明9年まで続いた戦乱でした。その長期に及ぶ戦争によって、室町幕府だけでなく、朝廷も大きく混乱しました。特に後土御門天皇が長期にわたって将軍御所に避難したため、すべての朝廷の行事は停止に追い込まれてしまったのです。

長引く戦乱の中であって、いち早く再興された朝儀が内侍所御神楽でした。文明4年2月には内侍所遷座にともなう御神楽が行われ、さらに恒例行事の内侍所臨時恒例御神楽も文明6年に再開されました。本書では、綾小路有俊、甘露寺親長、四辻季春という3人の公家と、その子孫の活躍を通して応仁の乱を描き出します。



## コロナ禍が執筆の動機だった



### 1 神楽研究の世界へ(2005～)

修士論文のテーマとして宮廷の御神楽を選びました。以来、後期博士課程、日本学術振興会特別研究員、新潟大学教員として、一貫して研究を続けています。

### 2 コロナ禍はじまる(2020)

新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中が大きな影響を受けました。新潟大学の授業も非対面になったほか、対面のイベントも中止になりました。

### 3 年中行事の多くが中止に

コロナ禍により、年中行事の多くが中止になったり、規模が縮小されたりしました。その現場を訪れて、毎年の行事ができなくなるこの影響を考えました。

### 4 講義を通して研究を進める

過去にも、応仁の乱によって、朝廷のすべての行事が中断。その中で内侍所御神楽がいち早く再開したこと確認しました。研究は講義を通して進めました。

### 5 刊行(2021)

すでに2冊の単著を出している新典社に構想を伝えて、出版が決定。一般向けの学術図書としたかったので「新典社選書」に加えてもらいました。

### 6 刊行後…(2022)

ロシアのウクライナ侵略が起り、戦争の映像がテレビやネットで流れてくることに。戦乱の中で文化を継承することについて、引き続き考えています。

## なぜ『なぜ神楽は応仁の乱を乗り越えられたのか』を出したのか

本書は、応仁の乱という長期の戦乱を対象としています。内侍所御神楽の再開という視点にしぼっても、通常の論文の分量には収まらないテーマでした。このような大きなテーマについて過不足なく論じるために、今回は書き下ろしの単著という形式を選びました。